

豊かな自然、歴史、文化のふるさと

「ひがししらかわ」で

“地域医療体験”と“地域の皆様との交流”を



研修日：平成25年8月30日（金）～9月1日（日）

福島県 県南保健福祉事務所

福島県の地域医療の現状がどのようなものであるか、自分の目で見て知りたい。

将来、自分がその担い手になるために、意識を高く保つためにも、その現場の様子を見学して

何か一つでも自分の糧となるような経験をしたい。

(参加者事前アンケートより)





目次

- 「ひがししらかわ」について
- 研修スケジュール

【第1日 8月30日（金）】



- 県南保健福祉事務所
- 医療法人 金澤医院
- 福島県厚生農業組合連合会 塙厚生病院
- 医療従事者との懇談会

【第2日 8月31日（土）】

- 事前研修
- 地域住民との交流
- 健康教室
- 富田区 豊年八朔踊り^{はっさく}



【第3日 9月 1日（日）】

- 研究発表会
- 江竜田の滝^{えりゅうだ たき}
- 吉田富三記念館

-
- 県南地区研修マップ
 - 研修参加者の声
 - 地方新聞記事
 - 実施要領



「ひがししらかわ」について



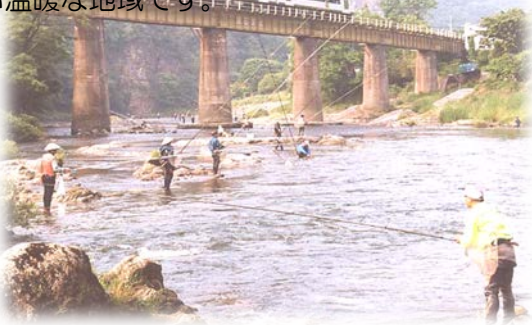
みなもん(源流の里づくりシンボルキャラクター)



☆「ひがししらかわ」
棚倉町、矢祭町、塙町、
鮫川村の東白川郡の
4町村の総称です。

やまつりまち 矢祭町

●「合併しない宣言」で全国的に話題になりました。春には矢祭山のつつじが咲き誇り、久慈川での鮎釣りも楽しめます。県の最南端で、雪の少ない温暖な地域です。



はなわまち 塙町

●町の総面積の8割を山林が占める豊かな緑の町です。町の中心を久慈川が縦断し、四季折々に美しい渓谷が楽しめます。また、8月から10月にかけてダリア園が開園します。



さめがわむら 鮫川村

●福島県の南部、阿武隈山地の頂上部に位置し、山間に集落が点在する典型的な中山間地域です。

豊かな自然環境の村内には“江滝田の滝”や“鹿角平観光牧場(天文台)”があります。

基幹産業である農業の振興と、高齢者の健康・生きがいづくり、特産品の開発を連動して「まめな暮らしが育む(スローな)環境を生かしたやすらぎとふれあいの村の実現」を目指しています。



(県南地方振興局HPより転載使用)

地域医療体験研修（夏期）スケジュール

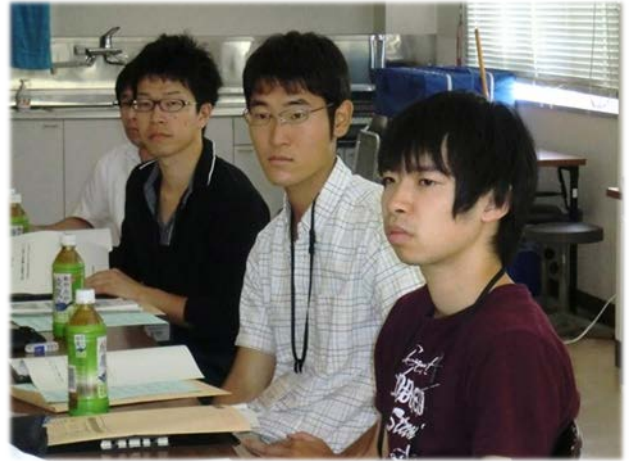
月 日	内 容	場 所、行 程	地 域 名
平成25年 8月30日 (金)	JR 福島駅出発→福島県立医科大学経由		
	オリエンテーション・見学	県南保健福祉事務所	白河市
	視察	医療法人 金澤医院	矢祭町
	視察	福島県厚生農業組合連合会 塙厚生病院	塙町
	医療従事者との懇談会		
宿泊	ほっとはうす・さめがわ	鮫川村	
8月31日 (土)	事前研修		富田区集落センター
	地域住民との交流		
	健康教室		
	富田区 豊年八朔踊り		旧富田小学校校庭
宿泊	ほっとはうす・さめがわ		
9月1日 (日)	研究発表会	えりゅうだ たき 江竜田の滝	
	観光		
	見学	吉田富三記念館	浅川町
JR 新白河駅経由→福島県立医科大学→JR 福島駅到着			

☆研修中は貸切バスで移動しました。



鮫川村内はレトロバスで移動!!

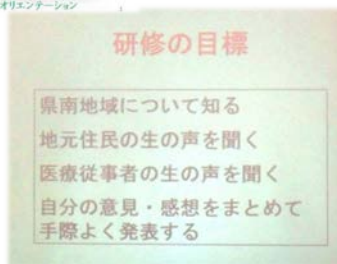
県南保健福祉事務所



☆オリエンテーション☆
研修スケジュールの確認や県南地域の概要について説明を受け、自己紹介や事務所内の見学を行いました。



大谷晃司 福医大医療人育成・支援センター副部門長兼准教授



☆県南地域の医療の現状について、理解を深めるだけでなく、今後勉学に励む上で、とても大きなモチベーションになった。

(福島県立医科大学医学部4年生)

☆地域医療の難しさを実感した。高齢化、医療、過疎、文化、生活、交通事情等が複雑に絡み合って、住民も医療者側もとても歯がゆい思いをしていると感じた。

(福島県立医科大学医学部4年生)



日時：8月30日(金) 10:45~11:15

住所：〒961-0074 白河市郭内 127

代表者名：所長 加藤清司

TEL：0248-22-5441 (代表)

http://www.cms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11008



☆懇談・視察☆

地域医療に従事する金澤寛院長はじめ医療スタッフの方々と懇談し、診療室や薬局、病棟の視察を行いました。



金澤寛 院長

☆金澤先生より、医院での業務内容だけでなく、開業に至るまでにどのような勉強をしてきたかなど幅広い内容について聞くことができた。

(福島県立医科大学医学部4年生)

☆地域で唯一という地域医療を担う診療所のあり方・実態がわかり、実際に自分の目で見ることができた。

(福島県立医科大学医学部4年生)

日時：8月30日(金) 13:35~14:35

住所：〒963-5118

東白川郡矢祭町大字東館字反田 13-1

代表者名：院長 金澤寛

TEL：0247-46-2312

<http://kanazawa2312.byoinnavi.jp/pc/>

診療科目：内科・外科・小児科



塙厚生病院



☆懇談・視察☆

佐川恵一病院長より、東白川地域の医療の現状について説明を受け、医療スタッフの誘導で院内の視察を行いました。

☆現場の人の姿をありのまま、そして病院長などから魅力的な話が聞けた。

(福島県立医科大学医学部4年生)

☆二次医療機関の実際の設備を見学し、このような規模の病院では、何が可能で、何がより大きな病院の協力を必要とするのか、知ることができた。

(福島県立医科大学医学部4年生)



佐川恵一 病院長



日時：8月30日(金) 15:00~16:00

住所：〒963-5493 東白川郡塙町大字塙字大町 1-5

代表者名：病院長 佐川恵一

TEL：0247-43-1145

<http://www.hanawa-fkousei.jp>

診療科目：内科・消化器科・循環器科・神経内科・小児科・精神科

・心療内科・神経科・外科・肛門科・整形外科・脳神経外科

・リウマチ科・アレルギー科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科

・皮膚科・泌尿器科・放射線科・リハビリテーション科

医療従事者との懇談会



菅野晶夫
塙厚生病院 副病院長



佐川恵一
塙厚生病院長



加藤清司
福島県 県南保健福祉事務所長



金澤寛
金澤医院長



☆座長☆
大谷晃司
福医大医療人育成
・支援センター副部門長

地域医療に従事する医師と医学生が「地域医療」をテーマに課題や問題点について、討論を繰り広げました。



西條聡
福医大医療人育成
・支援センター助手



鈴木真徳
福島県地域医療課主査

☆病院長や保健所長など、様々な視点から地域医療についてお話を聞き、より理解を深めることができた。
(福島県立医科大学医学部4年生)

☆自由討論は、大変興味深く、様々な先生の考え方を知ることができ、大変ためになった。
(福島県立医科大学医学部1年生)



日時：8月30日（金）16：00～17：30
場所：塙町 塙厚生病院 会議室
講演：「地域医療の現状について」
金澤医院 院長 金澤寛
塙厚生病院 病院長 佐川恵一

- 自由討論：① 地域医療に従事する医師の実状
② 地域医療の課題・問題点
③ 地域医療の確保に向けての提案



事前研修



西條聡医師より健康教室のための事前研修として脈拍・血圧測定や咽頭観察等の説明を受けた後、参加者同士で模擬診察を行いました。



☆他大生とうまく話しながら、診断への技術を練習できた。実際に地域の方々に対して教室を行う際にリラックスして臨めた。
(福島県立医科大学医学部4年生)

☆血圧測定や口腔検査など大学の実習等ではまだ体験できないことに挑戦することができた。
(福島県立医科大学医学部4年生)

☆大学の講義で習ったことを再確認できたよい機会であった。先生方には丁寧に教えてもらい、とても勉強になった。
(獨協医科大学医学部4年生)



日時：8月31日(土) 9:00~12:00
場所：鮫川村富田區集落センター

地域住民との交流



県指定重要文化財である二体の立像が納まる富田薬師堂を拝観しました。鮫川村富田区の住民の方々の手作りの昼食弁当に舌鼓を打ちながら、健康教室の前に交流を深めました。



手作り弁当とお味噌汁！！



☆住民の方々と接することで、実際にコミュニケーションをとることの重要性和難しさを学んだ。
(福島県立医科大学医学部1年生)

☆地域の実状や村の方々の暮らしや考え方を知ることができた。何よりなごやかな雰囲気での昼食会はとても楽しく、今夏の思い出となった。
(福島県立医科大学医学部4年生)



日時：8月31日(土) 12:00~13:00
場所：鮫川村富田区集落センター、富田薬師堂

健康教室



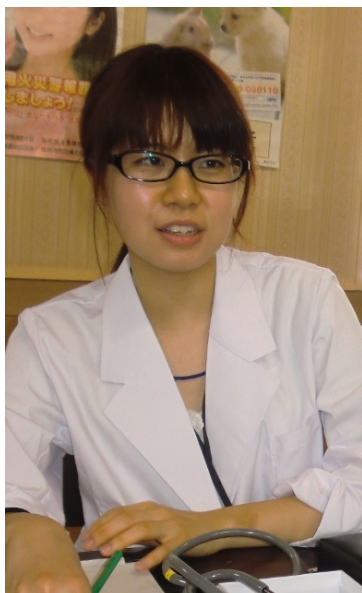
健康教室として、大谷晃司医師、西條聡医師の指導下、鮫川村富田区の住民の健康チェック（血圧測定や咽頭観察等）を行いました。

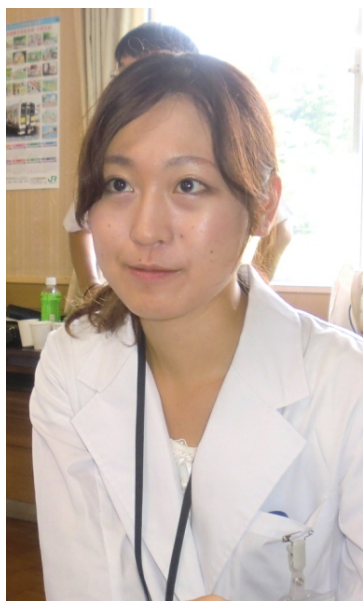


☆血圧を測りながら会話をして情報を引き出すという、大学での講義等ではまだしたことがない経験をした。また、医療サービスを受ける側の視点での、医療の実体に触れることができた。

（福島県立医科大学医学部4年生）

☆初めて医学生として診察をする機会を持てた。診察の難しさ（時間配分やコミュニケーション等）を学ぶことができた。（獨協医科大学医学部4年生）





☆実際に地域の人々との交流を通して、大学の中だけでは得られないものが、今回得られたと思う。
 (福島県立医科大学医学部1年生)



日時：8月31日(土) 13:00~15:00
 場所：鮫川村富田区集落センター
 座長：福島県立医科大学医学部 西條聡医師
 出席者：鮫川村富田行政区 松本恵治区長
 富田老友会 鷲野谷弘行会長、富田老友会の皆様

富田区 豊年八朔踊り

日時：8月31日（土）18：00～20：00

場所：鮫川村富田区 旧富田小学校校庭

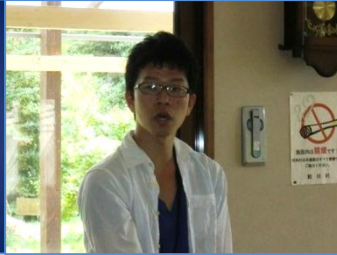


研究発表会

金澤医院:科をこえてあらゆる疾病に対応
産業医、警察医も業務
周りの病院との連携(搬送、紹介など)

塩厚生病院:患者の複数の病気を全て診る
(科に依らない診療)
金澤医院との連携
埴町だけでなく、東白河市全体の医療
の中心

モチベーションはひとつのつながり
それぞれの場でやりがいがある



8/31(金)に行った健康教室の結果、
①<高血圧、冷え、心房細動>
②<高血圧、高脂血症、心臓弁膜症、めまい>
③<高血圧>
通院:塩厚生、埴町・柳倉町のクリニック(車で30~60分)
⇒高血圧・高脂血症などの慢性疾患
⇒心房細動、心臓弁膜症(二次・三次疾患)
★近隣における緊急時に対応できる病院
富田地区の患者を
損なわないような医療との両立★★★



8月30日 地域医療機関の見学
住民数に対して医療機関が少ない状況において、限られたスタッフでいかに効果的なサービス提供を行うか。
・職場や職種をまたいでスタッフが連携すること
・在宅での診療・介護が大切であり、家族の協力は必須
一人暮らしの高齢者が多く、自宅における介護能力が非常に低い場合が多いという現状
医療そのものの改善だけでなく、家族など若い人が地域に留まるような、まちづくりを考えていく必要がある



8月31日 富田地区での健康相談
・現状:体調が悪い時はまず塩厚生病院へ、という傾向
・問題点:常に混雑し、診察が一日がかりに、それを理由に受診がおっくうになる人も
高齢者における、益々悪化する体質不良
重大な病気の初期症状・合併症による重症化のリスク増加
・課題:少しの不調でも気軽に医療機関を利用できること
一次医療機関(診療所など)と二次医療機関(塩厚生病院など)の役割分担を、利用者側も把握・使い分ける
医療サービスの効果的な利用へ



参加者が、東白川郡の病院・診療所の視察、地域医療に従事する医師との懇談会を経て、健康教室での地域交流から考察し、医学生としての研究発表会を行いました。

感じたこと、していきたいと思ったこと
・皆さん元気でとてもどきどき村でした
・幅広く対応の出来る医師になりたい
・進んで地域医療に携わる
・患者さんの話をよく聞ける医師
⇒病気の事だけではなく、心配り、感じていること、日々のこと
診療時間を長く取れる医療形態
鮫川村の皆さん、御世話になった先生方、本当にありがとうございました！



地域の方との交流で気付いたこと
・健康への関心
・進む高齢化⇒ほぼ半分が高齢者
子どもは他の地域へ
・地域の医師不足⇒診療所に医師が週末いない不安
・病院の待ち時間が長い
・地域のことではないけれど・医師のイメージ
・最小限のことはまんべんなくできる医師がほしい！



健康相談
・大変だったこと
・定期検診の結果や日頃の健康に関する心配事が多岐に渡っていて、どう答えたら良いか悩んだ(不眠、水分の取り方、心電図の結果)
・工夫
・逆流性食道炎や前立腺肥大症を想定した質問をしてみた
・感想
・分かる範囲で答えたが、もっと勉強しなきゃ工夫出来るようにないと感じた。



まとめ
・一般の方とこのような関わり方をするのが初めてで緊張した
・うまく話を聞くにはどうしたらよいかとても悩んだ
・様々な分野(医学だけでなく)について知るとともに、その人の性格や生活についてなど、地域性も理解していないといけないと感じた
・もっと勉強しなきゃ！

☆実習で感じたことを改めて見直し、他の参加者の視点や考えも聞くことができ、今後の学習のモチベーションにもつながった。
(福島県立医科大学医学部4年生)



日時: 9月1日(日) 9:00~10:00
場所: 鮫川村 ほっとはうす・さめがわ
●出席者: 鮫川村富田行政区 青戸禎美副区長
富田老友会の皆様





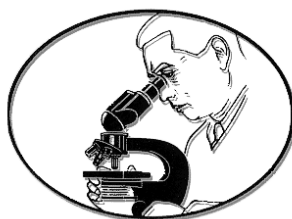
えりゅうた
江竜田の滝

日時：9月1日（日）10：20～11：00

とみぞう
吉田富三記念館



☆館長講話・館内見学☆
「がん研究」の先導者吉田富三博士の功績、研究室の再現や、博士のプライベートライフ等の説明を受けました。



内田宗寿 館長

☆吉田富三という偉人を初めて知り、詳しく知ることができて、良い刺激になった。医療についての考え方を、改めて考え直す機会になった。
(獨協医科大学医学部4年生)



日時：9月1日(日) 13:00~14:00

住所：〒963-7788

石川郡浅川町大字袖山字森下 287

代表者名：名誉館長 内田宗寿

TEL：0247-36-4129

<http://www.tomizo.or.jp>





福島県 県南地区 地域医療体験研修（夏期）マップ

県南保健福祉事務所



吉田富三記念館（浅川町）



鮫川村富田行政区



塙厚生病院



江竜田の滝



医療法人 金澤医院

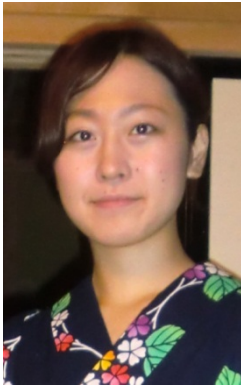


ほっとはうす・さめがわ



地域医療体験研修参加者の声

☆平成25年度夏期研修☆ 獨協医科大学医学部4年 石井 沙安也さん



私は福島県出身ということもあり、将来は福島県の地域医療に貢献できたらと考えていたため、地域医療の現状について多くを学べればと思い、この研修に参加しました。鮫川村の皆さんが朝から作って下さった昼食を食べながらの食事会、つづく健康教室を通してたくさんのことを教えて頂きました。「高齢化が進んでいること」「行き帰りや受診時間で病院にかかるのはほぼ1日掛かりになってしまうこと」「近くの診療所に常勤の医師が居ないため、もしものことを考えるとやはり不安だということ」等です。しかし、それ以上に印象的だったのが、医療の不便さを感じつつも、皆さんお互いに「元気だった？調子はどう？」と気づかい、助け合いながらとても朗らかに笑い合う姿でした。私自身、問診や診察も不慣れでとてもたどたどしいものでしたが、「いいお医者さんになれるよ」という言葉をかけて頂いた時は本当に嬉しく、また、同時に健康への不安を聞きながら、自分は学生といえども既に医療者として頼られているのだと気づき、そのことに背筋の伸びる思いがしました。この研修で今まで漠然としていた地域医療というものが少しずつ見えてきたように感じます。今、医師に限らず多くの若い人々は地域を離れ都会へ目を向けがちです。けれども交流を通じて見た美しい自然や祭太鼓や笛の音（丁度鮫川村のお祭りの日に重なったため、参加させて頂くことができました。）皆さんへの親しみは都会では感じることはできない、地域の暖かみだったと思います。こういったものを私たちの力で守っていくために、力をつけていきたいと強く思いました。この経験を生かし、地域に貢献のできる医師になりたいと思います。

☆平成25年度夏期研修☆ 福島県立医科大学医学部4年 高井俊輔さん



この研修に参加する前の地域医療に対するイメージは、「閉鎖的で、そこで働く医師は激務で心身ともに疲弊している」といった後ろ向きなイメージでした。しかし、研修で地域密着型の診療所や中核病院に訪れてみると、スタッフの数は少ないながらも、診療所と病院間で連携を取り、少ないスタッフを最大限に活かす工夫をしていたように思えました。大学病院や都市部の大病院ではチーム医療とはいうものの、やはり「医師は医師、看護師は看護師、薬剤師は薬剤師」の役割に徹してしまっている感が否めません。しかし、今回訪れた金澤医院では、医師、看護師、薬剤師、看護師そして調理師が一つのチームとなり、患者さんに一番適した治療法を模索し、提供していました。これこそが究極のチーム医療の形であるのだと思います。うまく医療機関同士で協力しあいながら、地域医療の役割を果たしてはいるものの、医療スタッフが不足しているということはまぎれもない事実です。鮫川村内は医師不在の時間帯が生じることもあり、地域住民はその万が一の時間帯に不安を抱えています。現実的に医師の数を増やすには時間がかかります。このことを考慮したうえで、地域の医療を充実させるために大切なことは、限られた医師の数の中で、無医村を作らないようにするシステムを作り、普及させる必要があるのだと感じました。

地方新聞記事

地域医療の課題を討論

東白川郡内 医学生が体験研修

県南保健福祉事務所 山間地域における医療所の地域医療体験研修の現場などを体験し、修は八月三十日から一。日まで、東白川郡内で民との交流を通じ、

福島医大と獨協医大（栃木県）の医学部生合わせて十人が参加した。初日は矢祭町の金澤医院と塙町の塙厚生病院を視察した。金澤川恵一塙厚生病院院長ら地域医療の現状についてをテーマに講義を受けた。地域医療に関する課題や問題点、地域医療従事者の確保などを討論した。

二日目は鮫川村の富田区集落センターを訪れ、血圧測定や簡単な健康診断をしながら高齢者と触れ合った。最終日の研究発表会では地域医療をいかにして維持していくか意見を申し出合った。

地域医療の現状に関する講義を聴く医学生ら—塙厚生病院

福島民報 県南版（平成25年9月3日付）

夕刊はなわ社 塙町大字塙字代官町3番地
 発行人 小貫信江 TEL 44-1266 FAX 44-1267

地域医療の現状など学ぶ

医学生が病院などで体験研修

県南保健福祉事務所による「地域医療体験研修」が三十日から三日間、郡内の医療施設などで行われている。

研修は地域医療に関心を持つ医学生を対象に、地域医療の現状視察や地域住民との交流場を提供し、東白川地域における地域医療や地域の現状について理解を深めてもらうと毎年開催している。今回は

大の医学生八人が参加した。初日は県南保健福祉事務所であり、エンターシオンがあり、矢祭町の金澤医院と塙厚生病院を視察した。塙厚生病院では佐川恵一塙厚生病院院長が「東白川地域における医療現状、塙厚生病院の在り方について考える」をテーマを聞き、地域の医師と懇談した。

二日目の三十一日は、鮫川村の富田区集落センターで地域住民と交流した。最終日の九月一日は、ほととはうすさめがわで研究発表会があり、鮫川の江竜田の滝や浅川町の吉田富三郎記念館を見学する。写真は塙厚生病院で研修する参加者

夕刊はなわ（平成25年8月31日付）

2013年（平成25年）8月31日（土曜日） 夕刊 矢祭 夕刊矢祭新聞社 日刊（日曜・祭日・第二・第四土曜休刊） 月額1,000円
 （NO. 11405） 先勝（旧 7月25日） 矢祭町家館字棟木町42-2 発行人 菊池正典 ☎46-3508 昭和57年12月6日第3種郵便物認可

医師から体験談聞き住民と交流

金澤医院を訪問し懇談
 東白川郡内で
 医学生が地域医療研修

福島県南保健福祉事務所主催の「地域医療体験研修」が三十日から三日間、郡内の医療施設などで行われている。

研修は地域医療に関心を持つ医学生を対象に、地域医療の現状視察や地域住民との交流場を提供し、東白川地域における地域医療や地域の現状について理解を深めてもらうと毎年開催している。今回は

大の医学生八人が参加した。初日は県南保健福祉事務所であり、エンターシオンがあり、矢祭町の金澤医院と塙厚生病院を視察した。塙厚生病院では佐川恵一塙厚生病院院長が「東白川地域における医療現状、塙厚生病院の在り方について考える」をテーマを聞き、地域の医師と懇談した。

二日目の三十一日は、鮫川村の富田区集落センターで地域住民と交流した。最終日の九月一日は、ほととはうすさめがわで研究発表会があり、鮫川の江竜田の滝や浅川町の吉田富三郎記念館を見学する。写真は塙厚生病院で研修する参加者

夕刊矢祭（平成25年8月31日付）

1 研修の目的

地域医療に関心を持つ医学生を対象に、地域医療の現状視察や地域住民との交流などの場を提供し、東白川地域における地域医療や地域の現状について理解を深めてもらうことを目的とする。

2 開催日

平成25年8月30日（金）～9月1日（日）〔2泊3日〕

3 対象者

地域医療に関心を持つ医学部学生

4 募集定員

10名以内

5 研修内容

(1) 地域医療現場の視察

東白川地域等の診療現場を視察する。

(2) 地域医療に従事する医師との懇談会

地域医療に従事する医師から、地域医療に対する考え方や体験談など生の声を聞き、意見交換を行う。

(3) 地域住民との交流

地域住民との交流を通し、地域の実情について理解を深める。

6 宿泊場所

東白川郡内宿泊施設等 ※宿泊費は県負担

7 集合・解散場所

JR 福島駅、福島県立医科大学、JR 新白河駅 ※借上バスで移動

8 申込み方法

(1) 当所ホームページの地域医療体験研修 [参加申込フォーム](#)より申込

(2) FAX または電子メールにより下記あて申込書を送付(電話でも可)

※定員になり次第締め切ります。

9 問い合わせ・申込先

福島県県南保健福祉事務所 総務企画部 総務企画課

電話 0248-22-5447 FAX 0248-22-5451

E-mail kennan.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp

福島県県南保健福祉事務所ホームページ

http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11008



☆研修最終日、滝の流れに、“ほっと”一息

研修参加者（平成25年度夏期まで）

福島県県南保健福祉事務所

大学名	参加者数	学年（参加時）						性別	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	男性	女性
福島県立医科大学	26	4	2	1	15	4		16	10
獨協医科大学	8	1	3	1	3			4	4
帝京大学	3		2	1				3	
山形大学	2	2						1	1
秋田大学	2	2						2	
東北大学	1	1						1	
北里大学	1			1					1
東京大学	1						1	1	
群馬大学	1		1					1	
鳥取大学	1				1			1	
(人)	46	10	8	4	19	4	1	30	16

出身都県	福島	栃木	東京	山形	埼玉	茨城	神奈川	群馬	千葉	大阪	和歌山	鳥取	島根
		20	6	4	3	3	2	2	1	1	1	1	1

地域医療とは地域密着であり、患者さんは近所であり、知り合いであることも多い。
地域住民たちとの関係を密にしながら働く医師は、とても充実している印象を受けた。

以前の私は、避地医療に赴くなど考えることもなかった…。

今では地域医療のために避地に行くのも良いのではないかと思えるようになった。

私自身の考え方の変化が、この研修の中で最も驚きであった…。

(参加者事後アンケートより)



医師及び医師を志す学生の皆さまへ



東日本大震災の発災から2年が経過しましたが、今なお、地震、津波、原子力発電所の事故、それに伴う風評被害は本県に甚大な影響を及ぼしております。

国内外からの温かい御支援をいただきながら、「ふくしまからはじめよう。」を合言葉に、県民、県、市町村、関係団体などが一丸となり、美しいふるさとを取り戻し、活力と笑顔があふれる福島県を築くため、全力で取り組んでいます。

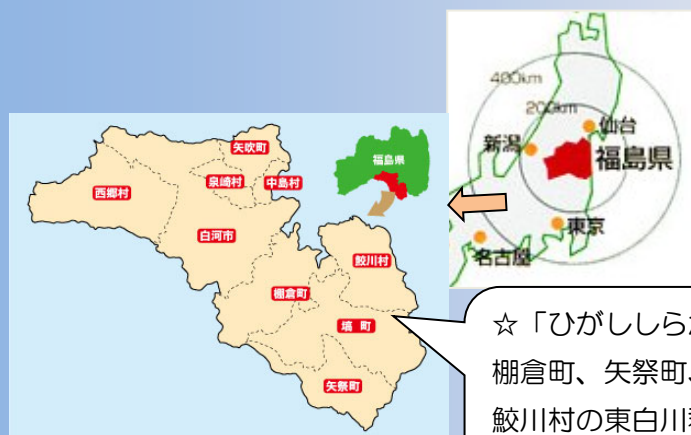
医療の分野では、医療提供体制の復興を成し遂げ、より安全で質が高く、より効率的な医療の提供を目指すため、新たに第六次福島県医療計画を策定するとともに、本県の医療を担う医療従事者の県内定着や県外からの招へい、医療施設の機能の強化など、様々な施策を進めております。

これらの取組を実効あるものとし、県民、とりわけ本県の未来を担う子どもたちが安心して伸び伸びと暮らすことができるふくしまを実現するため、是非とも皆様のお力添えをお願いいたします。

福島県知事 佐藤 雄平

福島県 地域医療体験研修 検索

Click

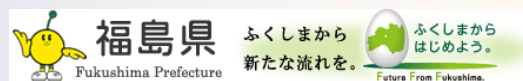


☆「ひがししらかわ」
棚倉町、矢祭町、塙町、
鮫川村の東白川郡の
4町村の総称です。

平成25年度

地域医療体験研修（夏期）事業実績写真集

平成25年9月30日 第1版発行



福島県 県南保健福祉事務所

総務企画部 総務企画課

電話番号 0248-22-5447

FAX 0248-22-5451

YouTube



facebook



http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11008